

# わが国の視覚障害者の将来

～将来ビジョン検討委員会 報告書～

社会福祉法人 日本視覚障害者団体連合  
(旧 日本盲人会連合)

# 目次

## はじめに . . . . . 1

1 報告書の発行によせて . . . . . 3

2 報告書について . . . . . 4

## 第1編 わが国の視覚障害者と日盲連 . . . . . 5

第1章 わが国の視覚障害者 . . . . . 7

第2章 視覚障害者に係わる法律 . . . . . 12

第3章 日本盲人会連合(日盲連) . . . . . 16

## 第2編 各分野における将来ビジョン . . . . . 21

第1章 政治への参加 . . . . . 23

第1節 選挙権を中心とした参政権の保障 . . . . . 24

第2節 被選挙権を含む政治活動の保障 . . . . . 26

第2章 職業と所得保障 . . . . . 27

第1節 あはき . . . . . 28

第2節 音楽家 . . . . . 30

第3節 様々な一般職の開拓とその支援 . . . . . 33

第4節 障害年金(障害者年金) . . . . . 35

第5節 生活保護 . . . . . 36

第3章 教育・リハビリテーション . . . . . 37

第1節 視覚障害者の教育 . . . . . 38

第2節 高等教育 . . . . . 42

第3節 障害児の保育 . . . . . 44

第4節 中途視覚障害者の教育・リハビリテーション . . . . . 46

第4章	情報保障	49
第1節	代筆・代読支援	50
第2節	情報アクセス支援	52
第3節	情報機器の発達	54
第4節	読書保障	57
第5章	外出保障	61
第1節	同行援護・移動支援の利用と拡充	62
第2節	歩行訓練	65
第3節	盲導犬	67
第4節	環境整備と新技術への可能性	69
第6章	地域生活	73
第1節	住宅	74
第2節	結婚	75
第3節	地元社会との繋がり	77
第4節	一人暮らし	79
第5節	消費生活	80
第6節	家庭生活	83
第7節	社会貢献活動	84
第7章	権利擁護	85
第1節	裁判を受ける権利	86
第2節	成年後見制度の利用	87
第3節	契約の締結	89
第4節	虐待や差別を受けた場合の救済	90
第5節	防犯	91
第8章	医療・健康	93
第1節	医療を受ける機会の保障	94
第2節	健康増進	96
第3節	視覚障害予防	97
第9章	高齢者	99
第1節	在宅介護	100
第2節	老人ホーム	102
第3節	生きがい対策	104

第 1 0 章	女性	1 0 7
第 1 節	複合差別	1 0 8
第 2 節	セクシャルハラスメント	1 1 0
第 3 節	子育て支援	1 1 1
第 1 1 章	生活支援用具・共用品	1 1 3
第 1 節	日常生活用具・補装具	1 1 4
第 2 節	一般商品のユニバーサルデザイン	1 1 5
第 1 2 章	余暇活動	1 1 7
第 1 節	スポーツ	1 1 8
第 2 節	文化・芸術	1 1 9
第 3 節	旅行	1 2 1
第 1 3 章	防災・減災意識	1 2 3
第 1 4 章	障害の理解と啓発	1 2 7
第 1 5 章	国際交流	1 3 1
第 1 6 章	終わりにあたって	1 3 5

<b>資料集</b>	<b>1 3 9</b>
------------	--------------

1	日本盲人会連合について	1 4 1
2	結成 7 0 周年記念シンポジウム	1 4 6
3	報告書完成記念シンポジウム	1 5 0
4	委員名簿、執筆者名簿	1 5 4
5	将来ビジョン検討委員会 開催履歴	1 5 5

はじめに

# 報告書の発行によせて

## － 将来ビジョン検討委員会の設置と本報告書の目的 －

日本盲人会連合（以下、本連合）は、1948年（昭和23年）8月に結成され、70年間にわたり団結力を強化し、視覚障害福祉の先導役を務めてきました。これまで、毎年<sup>の</sup>全国盲人福祉大会の開催を通して各地の声を集約し、国や関係団体に対して問題解決のための陳情活動を行ってきました。私たちの声が政治を動かし、国の制度を発展させ、視覚障害者の自立と社会参加を一步ずつ前進させてきました。

しかし、長年にわたり繰り返し陳情をしても、未だ実現していない課題も数多く残っています。時には、陳情活動が無意味ではないかという声や要求項目に優劣をつけるべきではないかなど<sup>の</sup>声もあります。ただし、大会に寄せられた声は、どれも重要なものばかりで、視覚障害者にとっての永久の課題である「安全安心の実現」と「情報保障」を求めており、おろそかにできないものばかりです。

そこで、本連合では、2013年（平成25年）に将来ビジョン検討委員会を立ち上げ、原点に立ち返り、視覚障害者を取り巻く現状や課題を総合的・系統的に整理し、分析することにしました。そして、約5年間にわたる議論を重ねた結果、結成70周年の記念事業として、私たちが目指す社会を実現するためのマスタープランともいべきビジョンを提示した報告書を作成しました。報告書の本編にあたる「第2編 各分野における将来ビジョン」では、私たちの関わりのある全分野を全16章に分け、現状、そして目指すべき到達目標と具体的方策を整理し、本連合の活動におけるマスタープランとして位置付けた内容になっております。

今後、本連合は、報告書で示した課題をどのような手法で実現するかを問われることとなります。もちろん、この報告書で示したビジョンは決して固定的なものではありません。認識の相違や時代の変遷に即して修正すべきものは修正するとともに、追加すべき課題があればそれを追加し、より鮮度の高いマスタープランにしていかなければなりません。その結果、来たるべき結成80周年記念の年には、どのような社会が実現しているかが問われることとなります。10年を一つの単位として、どこまで達成できるかを点検し、その実現を目指し、運動を展開していきたいと思っております。

2019年（平成31年）3月  
社会福祉法人日本盲人会連合  
会長 竹下 義樹

## 2 報告書について

### 1. 報告書の掲載内容について

本報告書は、2019年（平成31年）3月時点での情報を掲載した。また、発行元の団体名は、2019年（令和元年）10月1日に、社会福祉法人日本盲人会連合から社会福祉法人日本視覚障害者団体連合に改名したため、本文における団体名は旧団体名で記載している。

### 2. 報告書の書体、文字サイズについて

報告書は弱視者の見やすさに配慮して、以下の掲載ルールに従って編集を行った。なお、この書体などが全ての弱視者にとって必ず読みやすいものとは断定できない。

- ・タイトル                   ゴシック体、26または20ポイント、太字
- ・本文                        ゴシック体、14ポイント、太字
- ・数字                        全角
- ・アルファベット       略語は全角、略語以外は半角

### 3. 報告書で使用する文言について

報告書では、複数の文言がある名称・事柄は、一部の例外を除き以下の文言に統一して掲載を行った。

- ・本連合  
本文中において日本盲人会連合（日盲連）とするもの。
- ・弱視者  
視機能が弱く、矯正もできないが全盲ではない視覚障害にある者。ロービジョンとも呼ばれている。
- ・視覚特別支援学校  
視覚障害者への教育に特化した学校。盲学校、視覚支援学校とも呼ばれている。
- ・一般校  
地域に点在する一般的な学校で、通常学級と呼ぶこともある。視覚特別支援学校と異なる学校であることを表すため、報告書ではこの文言とする。

### 4. 墨字版以外の発行物について

報告書は墨字版の他に、以下の内容を発行する予定となっている。それぞれの発行物は、完成後、本連合のホームページ（<http://nichimou.org/>）にて掲載を行う。

- ・テキスト版            ・点字版            ・デジ版